

## 世界に羽ばたけ！ 米山学友⑥

## 母国再建の一翼を担う

## 国づくりの支えになりたい

カンボジア出身の米山学友、ハク・ユーさんが生まれた1975年、カンボジアはポル・ポト政権が樹立。ポル・ポト支配の4年間で、虐殺や飢饉によって死亡した国民は100万人とも200万人とも伝えられ、国土は荒廃を極めました。その後、ポル・ポト派は政権を追われたものの、以降十数年間、激しい内戦が続き、ユーさんの叔父や伯母の一家もポル・ポト派に捕らえられて命を落とし、幼い妹も内戦下の過酷な環境の中、病のために亡くなりました。

ようやく内戦が終結し、国連の監視下で民主選挙が実現した1993年、家族の理解と協力のもと、ユーさんは首都プノンペンにあるカンボジア工科大学に進学。「国づくりの支えになりたい」と土木工学を専攻しました。母国の復興・発展のために、土木・建設の技術が最も必要と考えるでの選択でした。



昨年9月まで参加していたプノンペン経済特区工業団地の建設現場で

## 背水の陣で勝ち取った日本留学

そんなユーさんが日本留学を目指したきっかけは、プノンペンの北、トレンサップ川にかかる「日本・カンボジア友好橋」でした。1966年に日本の協力によって架けられた元の橋は、首都への重要な輸送路であったために内戦中に爆破され、そのまま長く放置されていました。それが1994年、日本のODAによって再建されたのです。建設中の橋を見て、日本の高度な技術に感動したユーさんは、日本留学の夢を募らせました。

あこがれだけではなく、ユーさんには切迫した事情もありました。当時、父親は家族を養い、ユーさんに仕送

りをするために、単身でプノンペンの縫製工場に働きに出ていましたが、仕送りを続けることは難しく、ユーさんも中退を考えざるを得ない状況だったのです。

当時のカンボジアに奨学金制度はなく、学業を続けられる唯一の望みは、日本政府の国費留学生に合格することでした。叶わなければ大学中退という背水の陣で臨んだ結果、ユーさんは日本留学の切符を手に入れました。

## 初志貫徹して帰国を決意

来日後、東京での1年間の日本語研修を経て、国立

舞鶴工業高等専門学校（京都府）に入学。3年後、国立徳島大学工学部の3年次に編入しました。

国費奨学金の延長が認められなかったため、米山奨学金に合格しなければ、進学をあきらめて帰国しなければならず、ここでも背水の陣でしたが見事合格。進学できた喜びはもちろんですが、世話クラブの徳島ロータリークラブ（RC）の例

会や行事に参加するたびに、「ロータリアンが家族のように支えてくれることに胸を熱くした」といいます。

「カンボジアはこれからだよ！ あなたたち若者が頑張れば、元の豊かさを取り戻せるよ！」。ロータリアンからの応援は、「私は一人ではない」と明るい希望を与えてくれました。

物心両面のサポートを得て、ユーさんは真摯に研究に打ち込みました。当時のユーさんについて、指導教員の徳島大学工学部・望月秋利教授は、「彼は一言で言えば、“力強い”学生。とことん探求し、高度なところまで研究を進める姿勢が際立っていた。研究室でも、解析手法についての勉強会を開くなど、研究室の仲間によい刺激



よねやまだより

カンボジアの学友ハク・ユーさんは今年4月、3年ぶりに日本の土を踏みます。2006年、母国に帰国したユーさんは、技術者として数々のODA（政府開発援助）や大規模開発プロジェクトに参加し、日本企業と現地技術者との橋渡し役を務めています。今回の来日は、今年度新設された米山学友の里帰り制度「ホームカミング制度」で実現したものです。ユーさんを応援してきた人たちは、彼との再会を心待ちにしています。

を与えてくれた」と評価しています。

修士課程修了後は、四国電力系列の四電技術コンサルタント株式会社（香川県）に入社。ここでも解析に関する中核メンバーとして活躍しましたが、2年間勤めた後、「母国復興の力になりたい」と帰国を決意しました。やりがいのある仕事をなげうって、就職先も決まらぬまま帰国することに不安もありましたが、「今、帰らなくては」の気持ちが勝りました。

地区米山記念奨学委員長として、世話クラブのロータリアンとして、奨学生のころからユーさんを見守ってきた徳島RCの山田戒乗氏は「帰国のあいさつを受けたときは心配もしたが、内に秘めた母国への強い思いに胸を打たれた」と語っています。

### 3年ぶりの来日に心躍らせて

帰国後、希望した国土計画・建設省の国家公務員採用試験は、年齢制限のために応募できませんでしたが、日本で培った専門知識と語学力を生かし、数々の日本のODAプロジェクトやプノンペン経済特区開発プロジェクトなどに参加。日本企業と現地技術者とのコーディネーターやテクニカル・マネジャーを務めています。

「私はまだまだ未熟な技術者ですが、知識を生かして、国にいろいろ貢献できることがうれしい」とユーさん。「カンボジアで、土木や建築の基準をつくることに尽力していきたい」と、これからの夢を語ってくれました。

#### プロフィール

ハク・ユーさん

(2000 - 02年 / 徳島RC)  
カンボジア・カンダル州出身。  
2004年、徳島大学工学部修士号を取得し、四電技術コンサルタントに入社。06年に帰国し、日本のODAや経済特区開発のプロジェクトへの参加を経て、現在は、Brothers Investment Group Co., Ltd. 技術部勤務。



ユーさんは今春、第2670地区が米山学友の「ホームカミング制度」を通じて招へいする初めての学友として、徳島で懐かしい人々との再会を果たします。

「昔、日本に来たばかりのころに上野公園で見た桜が忘れられません。内戦で荒れ果てた国から来た私には、その景色は天国のようでした。日本はすごく美しい、と感じました。今回、同じ季節に日本を訪れることができるのが、とてもうれしいです」

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見は、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

### 台湾に留学しませんか? —— 台湾学友会が日本人対象の奨学金制度設立 ——

日本のロータリアンへ恩返しをしたい——。かつて米山奨学生として日本で留学生時代を過ごした台湾学友たちの熱い思いが、形になりました。

台湾学友会（正式名称・社団法人中華民國扶輪米山会、阮允恭理事長）が今回立ち上げた「日本人若手研究者対象奨学金制度」は、台湾の大学、大学院で学ぶ日本の若者へ奨学金を支給し、日台の絆を深める人材を育てようとするものです。学友の一人が「カウンセラー」として台湾での留学生活を支えます。現在、米山記念奨学会事務局を通じて第1期生の募集中。留学を希望する若者は、ぜひご応募ください（応募締め切り4月30日）。詳細は米山記念奨学会事務局まで。

奨学金	25,000 台湾ドル/月
奨学期間	2009年9月から1年間
採用人数	1人
応募資格	・30歳未満 ・日本国籍をもつ日本在住者 ・台湾の大学/大学院から2009年9月入学の入学許可書を6月末までに提出できる者
選考日程	応募締切(4月30日)後、書類選考の上、面接試験を実施